

目 次

基調講演

- 「体験」による真の「学び」とは 効果測定の結果から
上智大学 奈須正裕…………… 2

実践報告 1

- 2年目で全学年に波及
子どもだけでなく、自分もハマってしまった教育ファーム
福岡市立愛宕小学校 稲益義宏…………… 6

実践報告 2

- ママさんたちが田畑に集う
子育て農業で変わる“家族の時間と空間”
子育て農業応援団 山本実千代…………… 15

実践報告 3

- 早くも思わぬ効果と課題が……
“食べ手”と“作り手”をつなぐ「食と農をキビリ隊」発足
JA えびの市青年部 鬼川直也…………… 20

- 講演者・報告者プロフィール…………… 27

教育ファームねっとのご紹介

教育ファームとは？ *****

教育ファームは、生産者（農林漁業者）の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで、一貫した「本物体験」の機会を提供する取組みです。

体験を通して自然の力やそれを生かす生産者の知恵と工夫を学び、生産者の苦勞を学び、生産者の苦勞や喜び、食べものの大切さを実感をもって知ることが目的です。

「体験」による真の「学び」とは - 効果測定の結果から

上智大学 奈須正裕

1 新学習指導要領と食育・教育ファーム

- ・教育課程全体に関わる重要事項として「環境・食育に関する学習の重視」
- ・中学校技術・家庭科（技術分野）で「生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育」が必修に
- ・小学校家庭科で「食育の充実」の視点
- ・総合的な学習の時間は時数減ながら安定と一層の充実
 - 外国語活動の切り離しに伴う時数減
 - 記述位置が総則から独立章へ格上げ
 - 「探究」を主に担う領域として教育課程・学力論上の位置付けを明確化
 - 中学では選択教科を廃止し総合を残した
- ・総合的な学習の時間の文部科学省解説でも食育に関する記述
 - 学習対象に関する 16 の例示の 1 つとして「食をめぐる問題と地域の農業や生産者」
 - 小学校において、単元展開に関する唯一の例示として「そばづくり」を通しての「環境」「健康」「地域」の学習

例えば、「そばづくりをしよう」という単元であれば、児童は畑でそばを育てる活動を考える。この過程では、立派なそばを育てるには土作りや肥料、農薬をどうするかといった課題を設定し、その解決を目指して様々な調査活動を展開することが予想される。ここで児童は、環境の問題や食の安全が身近な生活と密接にかかわっていることに気付くであろう。また、インタビューの仕方を工夫してインタビューが上手になったり、得られた多様な意見を比較、分析する方法を学んだりもする。

栽培活動が順調に進むと、児童の関心は食品としてのそばへと向かう。ここでは、健康食としてのそばへの注目を契機に、ふだんの食生活を見つめ直し、食品やその購買行動と自分たちの健康について考えさせることが大切である。しかし、児童の力だけでは意識が届かないことも想定しておかなければならない。そこで、教師が健康食としてのそばを取り上げている本やポスターを授業で提示したり、朝の会で話題にしたりするなど、意図的な働きかけも必要となる。

そばが収穫できれば、そば打ちを学び、自分たちの手で本格的なそばを打ちたいと考える。児童はそば打ちのために、地域の人々に学ぼうとするが、そこでは様々な世代の地域の人と適切にコミュニケーションする力が求められる。

交流の中で、なぜこの地域はそばづくりが盛んなのかという疑問もわいてくるに違いない。この疑問について考える中で、この地域は水田耕作に適さない自然条件だからこそ、そばづくりが盛んになったことを知り、厳しい自然条件と共生し、食文化や観光資源として高めてきた人々の知恵や工夫に気付く。そして、そのことが地域への愛着と地域の一員としての自覚を深めていくであろう。このような児童の変容を実現するには、どのタイミングでだれに出会うのがもっとも効果的かなどを、教師として慎重に検討しておくことが大切である。

2 定量調査の結果から

・全国 11 地区 2000 人を超える児童の意識変化を調査票により追跡。

1) 農作業の経験が「ある」と答えた子どもほど、

食べ残しをしない。

郷土への親しみを感じている。

農業への理解度が高い。

ライフスキル得点が高い。

農業体験には十分な教育効果のあることが証明された。

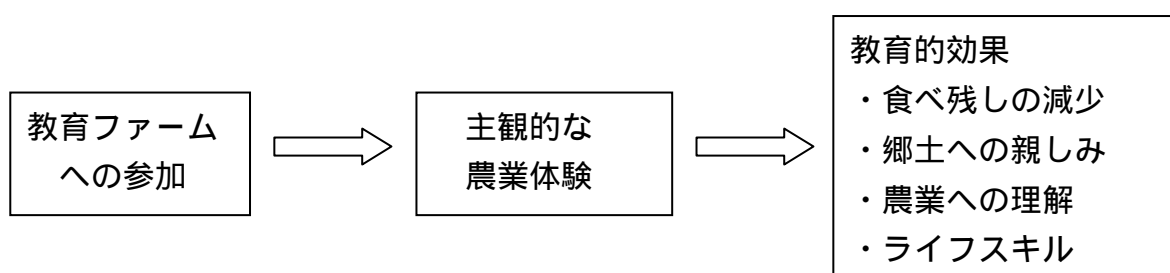
2) 教育ファームに参加したことで、農作業の経験が「ある」と回答する子どもの割合は増加したが、教育ファーム参加後においても、6.0%の子どもが農作業経験が「まったくない」、9.1%の子どもが「ない」と回答。また、回答には実施団体によってかなりのばらつきがある。

教育ファームは客観的には2回以上の農業体験を提供しているが、それが子どもの意識にまで届いていない場合もありうる。

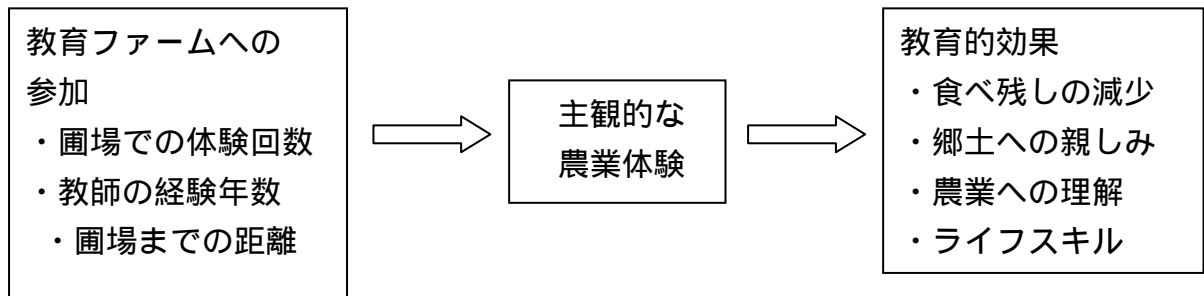
子どもの意識に届いた場合（農作業体験が「ある」）には、1)の教育効果が期待できるが、そうでない場合には教育効果は見込めない？

教育ファームの「質」が教育効果を大きく左右する。

「質」を吟味するポイントは子どもの主観的な農業体験



- 3) 教育ファーム活動の中で、1年間に圃場に行った回数が多いほど、指導する教師の経験年数が長いほど、圃場までの距離が遠い場合よりも近い場合において、農作業の経験が「ある」と答える子どもの数が多い。



他にどんな要因が主観的な農業体験を左右しているか？

3 定性調査の結果から

- ・インタビュー、作文、ウェビングマップにより、具体的な子どもの姿の変化を追跡。
以下の5点が、特に顕著な変化（教育ファームの効果）として確認できた。

- 1) 農業に関する正確な理解の促進と、その平板な辞書的知識から実感を伴った体感的で構造的な知識への変化
 - ・77名中47名について、教育ファームの前後でウェビングの記述量が増えた。
 - ・ウェビング内の知識が、より構造化され、体系だったものへと変化した。
 - ・ウェビングの言葉が平板な辞書的表現（「田んぼ」「草」「緑」等）から、実感を伴った体感的な表現（「最初はとまどった」「つかまれるのが楽しかった」等）へと変化した。
- 2) 農業に対するイメージの、否定的から肯定的への変化
 - ・作文において教育ファームの前後で以下のような変化が認められた。
前：「楽しくなさそう」「めんどくさそう」「仕事してあまりやりたくない」
後：「農家は「ダサイ」なんかではなく、「かっこいい」だったことをみんなに知ってもらいたいと思った」
「ゲストティーチャーのみなさんは、自分の力で生きているような気がした」

3) 農や食を巡る問題関心の、他人事から自分事への変化

- ・「最初のころは、農業は「だれかが、やってくれる。自分はその人が作った物を食べればいい。」という考えだったけど、総合の学習をしてから農業人口が減っている事などを知って、自分もしょうらい農業をする時が来るかも、などと感じました」
- ・「日本の自給率40%で、それを聞いた時、わたしは半分以下なんてありえない！と思いました。わたしの家族や地域にいる人たちと協力して、1%でも少しでもあげたいと思いました。」
- ・「この学習で食の大切さ、農業の大変さと楽しさを学び、日本人は貧しい暮らしをしている人の食料をうばい、すててしまっていると思いました。なので私は、食べ物を残さないようにしています」

4) 教育ファームを契機とした、自然への関心の高まり

- ・「(田んぼに)生き物がいるから、稲が育つのに、もし生き物がいなくなったら、稲は育たなくなってしまうかもしれないから、生き物は大切だと思います」
- ・「まきではなくわらで炊けば、木を切らずに自然を守れて、かり取ったわらをむだなく使えるので、自然にやさしいと思います。ご飯を食べて、ぼくは自然のありがたさを感じました」
- ・「農家の人は土が命だということだと思いました」

5) 教育ファームを契機とした、自身の在り方や生き方全般への見直しの促進

- ・「この1年、この学習をしてよかったと、しみじみ思います。私が今、目標としている生活は、プランターでやさいを作りながら、おだやかに、食べ物にかんしやしなから生活することです」
- ・「私達が体験したのはほんの一部だけで、もっと多くの仕事があるのに、それは私達の都合で全てやっていただきました。稲もそうです。それなのに、稲やサツマイモをいただいて、全校にあげずに独りじめしようとしているのが、とても恥ずかしく思いました」
- ・「この学習を通して、自分で出来る事はなんでも自分できるようになりました」

子どもだけでなく、教師もハマってしまった教育ファーム

愛宕子ども稲作体験会

福岡市立愛宕小学校 教諭 稲益 義宏

1 , 「教育ファーム」に取り組む前の子どもたち

- ・愛宕小学校の校区の様子
- ・農業に対する子どもたちの意識

2 . 「教育ファーム」で取り組んだこと

- ・地下鉄に乗って行った , 福岡市西区周船寺での稲作体験
- ・学校での「バケツ稲」と「学校田んぼ」
- ・田んぼの生き物調査
- ・ゲストティーチャーによる講演
- ・夏休みの宿題「普段は買うのが当然の食べ物を , 自分で作ってみよう」
- ・生ゴミリサイクルで野菜作り
- ・しめ縄作り
- ・未来発見プロジェクト(食と農)「私を支える食べ物」私たちと食べ物の未来を明るくする
33 の提案
- ・収穫したお米で作った「子どもが作る弁当の日」

3 , 「二匹目のどじょう」を狙ったつもりが...

- ・今年も「教育ファーム」に当選！計画万全！順調にスタート！のはずが...
- ・土と肥料
- ・「教育ファーム」は , 農業で一番肝腎なところをスルーしているのかも

4 , 私の「教育ファーム」

- ・食と農を通じて出会った , たくさんの人たち
- ・「むすび庵で農と旬を語ろう会」
- ・「教育ファーム」成功のポイントは...

校区に田んぼがない学校の稲作体験

未来発見プロジェクト(食と農)

教育ファーム

わたしを支える食べ物

わたしたちと食べ物の未来を明るくする 33の提案



農業

は、きつい、汚れる、めんどくさそう。休みがないし、もうからない。誰かがやってくれる。お年寄りができる事。私たちには関係ない。興味なし…
ここから始まった教育ファーム。
1年後の子どもたちは…



福岡市立愛宕小学校

- ◆事業名 農林水産省平成20年度「いっしょに食育推進事業」
「教育ファーム推進事業」
- ◆事業実施主体 (社)農山漁村文化協会
- ◆実施団体 愛宕子ども稲作体験会

学習の様子と33の提案をWebで公開しています。
「地球にかける虹」

<http://members2.jcom.home.ne.jp/sora-riku-umi/>

学校のミニ田んぼ



◎毎年恒例の学校田んぼ。地域の方の支援を受けて実施しました。豊年エビやカブトエビなど、この田んぼでも観察が出来ました。



バケツ稲



◎1人1バケツ稲を育てました。土は、子どもたちがそれぞれで用意しました。それぞれで育ち方が違いました。

ゲストティーチャー



◎多くのゲストティーチャーをお招きしました。教育ファームだからこそ出来たこと。貴重なお話をたくさん聞けました。

田中さんの「自分のことは自分でやりたい」というのがかっこいい!

宇敷さんから今まで見たことも聞いたこともない虫のことを教えてもらいました。その日は、何だか得をした気分でした。

森さんから「その地域は、コンビニもスーパーもない、川からも山からも川からも畑からもごちそうがやってくる。」と聞くと、田舎もいいなと思いました。

◎田んぼを貸していただいた中島さん、田植え稲刈り指導の末松さん、学校田んぼ支援者の石井さん、小濱さん。本当にありがとうございました。

稲作支援



田植えをするだけで難しかった。1年中世話して育てている人たちはもっと嬉しいんだと思って、感謝してご飯を食べるようになりました。

バケツ稲は自分だけで育てたんじゃないんです。お二人のおかげです。夏休み、毎日学校の田んぼとバケツ稲の水やりをしてくれたそうです。ありがとうございました。

体験は楽しかった。だけど、今、農業はできない。それなら、農業のために、生活の中でわたしたちができることを考えよう。



私たちの提案

21. 私たちの住んでいる所でできる野菜をおいしく料理する方法

テーマ 地域 地域での住んでいる人々の野菜をおいしく料理する方法

② 地域の野菜を食べたい。

調べたこと このテーマを選んだ理由・現状
 私達は地域の野菜をあまり知りませんでした。クラスの人にもアンケートをしました。その結果がグラフにまとめたのであります。

このように、クラスの人でも地域の野菜を知らないことが多かった。なのでこのテーマにしてほしい。そして、実際に食べてみたい。そこで地域の野菜を調べたい。

まず最初に、地域の産物センターに行き、地域の野菜の種類を調べました。その結果は、

種類は全部の物を見せました。でも、みんなは種類の野菜を知らないことが多かった。次に、野菜の種類を調べました。

キャベツ、セロリ、ブロッコリー、レタス、チンゲン菜、きゅうり、トマト、パセリ、かぼちゃ、パプリカ、豆苗、ねぎ、ほうろび草、ニラ、小松菜、ケンサイ、人参、春菊、なすなどでした。

たくさん種類の野菜がありました。

最後に地域の野菜を使って料理を作りました。

「作った料理は「ポテトサラダ」と「オニオンスープ」

選んだ理由は、1. 野菜がたくさん入っているから、2. 子供が好きだからです。

地域の野菜を使ったポテトサラダの作り方

材料 4人分
 人参(皮むき) じゃがいも (ポテト) (1個) ハム(軟質) 卵1つ
 マヨネーズ(適量)

作り方
 1. 人参とじゃがいもを皮むき、じゃがいもはさくまで薄切。
 2. きゅうりとハムを切る。
 3. 人参とじゃがいもを湯で茹でて食べやすい大きさに切る。
 4. 卵をゆでる 5. 全部を混ぜる 6. マヨネーズを入れる
 7. 完成

地域の野菜を使ったオニオンスープの作り方

材料 4人分
 オニオン(玉ねぎ) 1個、ポテト 1個、コンソメ(顆粒) 玉ねぎ(10g)

作り方
 1. 玉ねぎを切る
 2. 湯の中に玉ねぎと、コンソメを入れる
 3. 200-300cc位 4. 完成

地域の野菜の活用
 地域の野菜を食卓にのこすのは、住んでいる人々のために、地域を盛り立てることに繋がります。

この学習で学んだこと
 地域の野菜がこんなにあることを知ることができました。料理はとってもおいしくてよかったです。あと地域の野菜を知りたいと思いました。そして、あと料理を作ってみようと思いました。

同じく、地域の野菜を食べてみたい。地域を盛り立てたい。

私たちの提案
 みなさんも、地域の野菜で、安全でおいしい食事を作ってください。

知らないことが、多すぎる！ 身近なところでたくさんの食べ物を作っていた。



私たちの提案

1.「おせち料理」一品一品の意味を知って、子どもがおせち料理を作る方法

テーマ
おせち料理一品一品の意味を知って、子どもがおせち料理を作る方法
① 3月3日 ぼたんまつ会しよう

趣意
日本の伝統料理「おせち料理」のすばらしさを知りたい

背景
日本人ならほとんどの人が正月におせち料理を食べます。しかし、最近ではおせちが嫌いというおせち作り手が増えています。その理由は、目こぼしや高カロリーな食材が元々多かったり、味がなく辛いという理由を聞きました。また、減塩という新しい理由もありました。そこで、おせちの作り手へのアンケートをしました。

おせち料理の意味を知りたい？
このように意味を知りたい人が増えているのは、おせちが嫌いという理由が、おせちが嫌いという理由が、おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。

おせち料理の意味
おせち料理は、おせち料理の味を知りたいという理由が、おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。

黒豆のししこ
材料
黒豆 100g 水 300ml
調味料
しょう油 大さじ 2 だし 大さじ 2
作り方
①ボウルに黒豆と調味料の粉を入れ、よく混ぜる。
②なべに熱湯を沸かし、①を加えて加熱する。
③10分加熱したら、だしを加えて、さらに10分加熱し、自然に冷ます。
これで完成です。おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。

このおせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。

私たちの目標
おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。おせち料理の作り手として、おせち料理の味を調べてみました。

自分で作る

家庭科の調理実習、自然教室の野外調理、夏休みの宿題、日常生活の中で技術を身につけ、くらし力を高める。



わたしたちと食べ物の未来を明るくする 33の提案

伝統食

1. 「おせち料理」一品一品の意味を知って、子どもがおせち料理を作る方法
2. 日本の行事食を残していく方法
3. 子どもでも「お雑煮」が作れるようになる方法
4. 作ったことがない人でも本格的な「鍋多煮素」が作れる方法
5. 「ちまき」を家庭で作る方法
6. みんなで協力して楽しく「ちらし寿司」を作る方法
7. 子どもでも簡単に「がめに」を作る方法
8. 日本に昔からある「ぬか漬け」を家庭で作る方法
9. 子どもでも簡単に作れる「つけもの」レシピを考えよう
10. 子どもでも簡単に「みそ」を作る方法

野菜作り

11. 小学生が家庭で野菜を作る方法
12. ベランダや庭でプランターでも楽しく野菜を作る方法
13. マンションに住んでいる人でもベランダで簡単に野菜を作る方法

エコ

14. 余ったカレーでおいしいコロッケを作ろう
15. 作りすぎたカレーの残りで違う食べ物を作る方法
16. 子どもでも簡単にできる和食のエコ料理を作る方法
17. 家庭で出る生ゴミを減らす方法
18. 果物と野菜の皮をゴミにしない方法
19. 冷蔵庫の中で食べられなくなる食品をなくす方法
20. 給食の食べ残しがなくなる方法

地産地消

21. 私たちの住んでいる所のできる野菜をおいしく料理する方法
22. 西区で作られた農作物を買い、自分たちの食生活に取り込む方法

朝ご飯

23. 小学生が1日がんばれる朝食を作る方法
24. 朝ご飯を短時間で作る方法
25. 健康な和食の朝ご飯を1人で作る方法
26. 子どもが一汁二菜の朝ご飯を作る方法
27. 子どもたちの朝食をなるべくご飯にする方法

夜ご飯

28. 夜ご飯を家族みんなで楽しくする方法
29. 夜ご飯を家族みんなで楽しく食べる方法
30. 夜ご飯をみんなでたのしく食べる方法

健康

31. 免疫力を上げる食事の仕方
32. 子どもが便秘にならない食事
33. さらいなピーマンを食べやすく調理する方法

すべての提案をWebで公開しています。
「地球にかける虹」

<http://members2.jcom.home.ne.jp/sora-riku-umi/>

子どもたちの成長

田んぼに水をはい苗を植える。その苗が生長し、穂が出て米が実り収穫する。稲を育てる風景。田んぼにはたくさんの生き物たちが命を育む姿も見られました。

日本に伝えられてからこれまで、毎年途切れることなく続けられてきた米作り。その米を、私たちは毎日を食べ、自分たちの命を支えてきました。

今、日本の食糧自給率は40%。牛や豚が食べる飼料の穀物まで入れると28%しかありません。私たちが食べているものの多くは、外国からの輸入。国産のお肉も、家畜を育てるためのエサは外国産。学習する中で、みなさんは自分と食べ物との未来が明るく、ことばかりではないと感じました。

田んぼでの田植え。ぬるっとした土の感触。成長した稲を見ながらそこで生きる生き物の観察。豊年エビ、カブトエビなどこれまで知らなかった命を知りました。秋の稲刈り、落ち穂拾い。どれもが初めての体験。自分と食べ物との関係を考えるきっかけになりました。

学校では、三田んぼと1人1/1バケツで作った1/1バケツ稲。それぞれが持ってきた土を使い、1/1バケツで稲を育てました。9月には稲の花も観察できました。そして秋の収穫。田んぼの管理や稲が暑い夏を乗り越えることができたのは、地域のお二人方の支援のおかげでした。稲を育てることは、簡単なことではない事を感じました。

また、今年は5人の方々に食と農と命について話をいただきました。社会には世の中を良くしようとがんばっている「カッコいい大人」がたくさんいます。みなさんも「カッコいい大人」の仲間入りをしませんか。

食べることは、個人的なことですが、1人の力だけで食べ続けることはできません。「わたしを支える食べ物」は、「わたしたち」の力を合わせることで未来を明るくできる。大切なことは、自分から行動すること。今回の学習がその第1歩になることを期待しています。

みなさんを担任した5年生の先生より



学習後の子どもたち

食べ物を作っている人たちは、楽しい時もうれしい時もあるけれど、苦勞するときだってたくさんある。だから、私たちは、「当たり前」と思うのではなく、作ってくれた人に、そして、食べ物にたくさん感謝しなくちゃいけない、と思いました。

かまを持つのがこわかったけど、がんばりました。上手に根もとから切ったときは、うれしかったです。

農業は、人だけでなく、他の生き物にも、大切なものなんだ。

食べ物を粗末にしなくなりました。残そうと思っても残せません。食べ物を作る苦勞はお金では買えない。

自分でやってみる。そうすると、どれだけ家の人にやってもらっているかが分かると言われたので、やってみたら、お母さんのたいへんさやありがたみが分かりました。これまでよりもお母さんに感謝できるようになりました。

学習をして、農業にはまりました。これからも、農業体験を続けていきたいです。思農業について、もっと学び、自分の生活に結びつけて考えたいです。

私は、これから、農家の人が喜ぶような食事を1人で作れるようになりたい。

僕たちの食べ物、生き物から作っている。牛や豚などの命を奪っている。だから、感謝して食べないといけないんだなあと思いました。

お茶わんについているご飯つぶを最後まで食べるようになりました。

以前はパンだったけど、この学習を初めてから、朝は家族みんなでご飯を食べるようになりました。今度は、わたしが朝にみそ汁を作りたいと思います。

農業に関する新聞の記事を読むようになりました。

全部植え終わったら気持ちよかったです。

僕も、将来、農業をする時が来るかもしれないし。

「食べることはあたりまえ」と思っていた私。が、「食べることは生きることに繋がる」や「食べて生きることが幸せ」に変わりました。

「こひる」が印象的でした。伝統食がなくなるために、家で作ったものを持ち寄って食べる「家庭料理大集合」は、いいなあと思いました。

私たちは、いつもいろいろな人の努力や苦勞に支えられていることが分かりました。私の農業と食に関するイメージは、いいものになりました。

農業はこんなに楽しいんだ!



教育ファームから「愛宕小学校 子どもが作る弁当の日」へ

LOOK! 「食料自給率向上に向けた国民運動推進事業」(農林水産省)FOOD ACTION NIPPON「新聞ブログで学ぼう!地域の食文化」に参加し、学習したことを発信しました。 <http://kodomo.syokuryo.jp>

子どもたちの提案を、検証していただけますか

子どもたちの提案を実際に検証していただけますか。そして、ぜひ感想をお寄せください。提案の中にはまだまだ不十分な点もありますので、みなさんの工夫も加えて実現していただけますと助かります。子どもたちの活動が実際に社会の役に立つという経験させてあげたいと願っております。どうぞよろしくお願いたします。宛先は、「愛宕小学校2008年度5年生担任」愛宕小学校にご連絡ください。メールの場合は、caz66220@hotmail.comへお願いたします。

この報告書に関するお問い合わせは、Eメールをお願いします。

caz66220@hotmail.com

福岡市立愛宕小学校

〒819-0015 福岡市西区愛宕4丁目15番1号

TEL:092-882-0264 FAX:092-882-4398 HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/elstago>

Copyright (C) 愛宕子ども協働体験会 All Rights Reserved.



育児に何かと制限され絶対無理と思っていた「農業」

汚れるし、大変そうだし...

子供達と一緒に「農作業」したいけど、どうしたらいいかわからないし、1人じゃ...
そんな時に出逢った『子育て農業応援団』

8家族24人、スタッフ19人、総勢43人でスタートした畑作り...

たくさんの方の仲間達とスタッフ...

それまでの不安が楽しみに変わった...

5月3-4日 畑の開墾

5月11日 野菜の種植え・畑の畝作り・田植え・さつまいも苗植え

5月25日 野菜の種まき

6月1日 草むしり・畑のお世話

6月22日 野菜の種まき・苗植え・畑の支柱立て





立派に生い茂った雑草くん達... そんな早苺しりも皆でわいわいがやがや...
 そんな中で農作物と馴いながら育つ子供達...
 真っ赤に実ったトマトをバクッ! お化けに育ったキュウリをガブリッ!
 ここは『自然の食堂』
 いつもは怒られるけど、物置小屋にも思いつきで書き置き...
 紫山子だってみんなで作る...
 ここは『自然の教室』

7月13日 物置小屋アート・野菜の収穫
 7月27日 早苺しり・野菜の収穫
 8月2日 早苺しり・すいか・野菜の収穫
 8月10日 紫山子づくり・野菜の収穫
 8月24日 秋じゃが植え・野菜の収穫





気付けば誰が言うでもなく、大きい子が小さい子の面倒を見ている...
 春に自分達で植えた稲を自分達の手で刈り、みんなで食す...
 各々のお家で育てて畑に引越した苗が大きな枝豆に大変身...
 収穫祭には大人も子どもも皆フームファームミーに...
 トトロに出てくる大きな蜂の様な葉っぱを引っこ抜けば里芋がゴロゴロ...
 そのまま畑で調理してみんなで囲んで食べた「芋煮鍋」
 気付けば子ども達は上に、大人達は横に大きく成長?!

9月 7日 芋むしり・野菜の収穫
 9月 13日 稲刈り・野菜の収穫
 9月 28日 船給体験・野菜の収穫
 10月 13日 芋掘り体験
 10月 25-26日 収穫祭・みどりの里そは打ち体験・創作の森お泊り
 11月 9日 里芋掘り・芋煮鍋
 11月 24日 秋じゃがいも掘り・野菜の収穫



雪が降り積もって畑作業は出来なくなってもファームネットは続く...

人と食の拠点を築いた1年...
 この1年で育ったのは野菜だけじゃない...
 ゆっくり時間をかけて育んでいく...
 共通のたくさんある【子育て】と【農業】
 ここに【ファームひろば】誕生！

【ファームひろば】で子どもも大人もみんなでゆっくりに楽しく生きていこうよ...

- 12月14日
- 1月12日
- 1月25日
- 2月7-8日
- 2月12日
- 2月28日

りんご狩り・りんごジャム作り
 カルタ取り・大豆のさややし体験
 金沢さとさと市風見学
 子育て農業応援団新任会
 教育ファーム成果発表・交流会 IN 北陸
 子育て農業ファームINかなざわ

一石二鳥・・・いやっ、三鳥も四鳥も・・・飛ぶ鳥落とす JAえびの市青年部

“食べ手”と“作り手”をつなぐ

『食と農をキビリ隊』発足！！

～ 早くも思わぬ効果と課題が・・・ ～

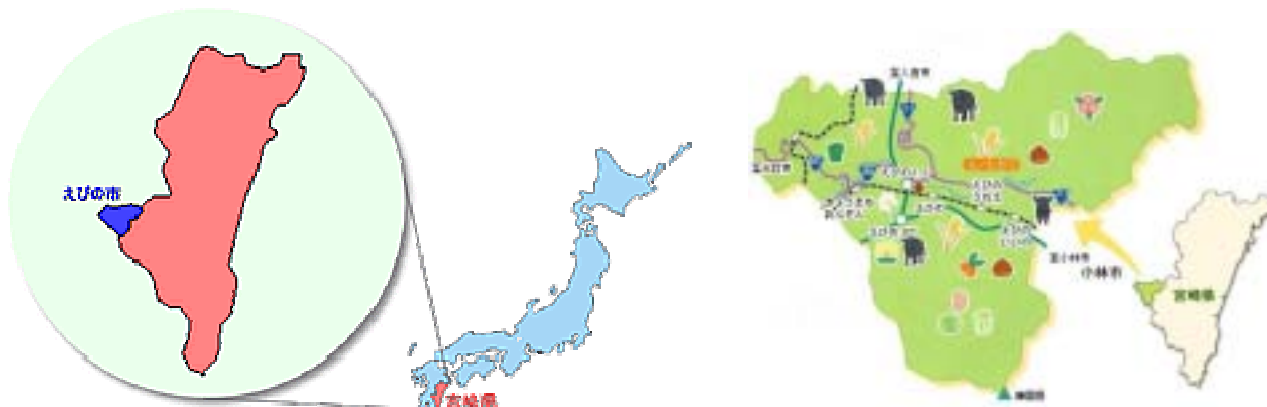
JAえびの市青年部部長 鬼川 直也



平成21年5月31日撮影

1 . えびの市並びに J A えびの市青年部の概要

1) えびの市概要



えびの市は人口 22,000 人程の農業が基幹産業の町です。農耕地は標高 220 ~ 720 m の差がある盆地特有の地理を活用して平場では普通作のお米、山手では高冷地野菜を生産しています。えびの市は宮崎県内で唯一、九州自動車道が通り、また唯一、東シナ海に流れる川内川の上流にあります。生活習慣や言葉と言った文化は鹿児島県の影響を強く受けていて、言葉は東国原知事よりもイントネーションの強い鹿児島弁です。

農業に重要な天気予報は熊本県の人吉地方が良く当たるといったように、行政区は宮崎県ですが、文化や暮らしは鹿児島県、熊本県と密接に関係しています。

2) J A えびの市青年部概要

部員数： 59 名 (平成 21 年 7 月 1 日現在)

活動内容： 各種営農学習活動、食農教育、地域貢献活動、交流活動、農政、
地場産品 P R 活動、販促活動、

2 . J A えびの市青年部は宮崎県の食農教育のパイオニアだった！

食農教育活動

今回、この教育ファーム推進事業を取り入れるまでの食農教育活動は、市内 3 小学校の 5 年生を対象に数箇所の農家と J A の施設をバスで巡回し、各種農作業体験や施設見学を行う「農家のおじちゃんと語る会」といった活動を 14 年間、実施してきました。

また、田植から稲刈り、羽釜での炊飯・料理教室や餅つきといった収穫祭までを行う活動の「お米学習教室」を 12 年間続けてきました。

《 家のおじちゃんと語る会 》



酪農家宅での牛のブラッシング体験



イチゴ農家での説明風景



そら豆の種の収穫作業体験



和牛子牛への給餌体験

《 お米学習教室 》



田植え体験



稲刈り体験



お米講座



羽釜で炊飯体験

3．教育ファームの狙い

食育や農業の大切さ、問題を語るのは現場の生産者ではなく、農業をやったことの無い人たちばかり。特に食育の分野で消費者の前に立つのは管理栄養士などが多く、話のほとんどを占めるのは、栄養面の話ばかりで食育に農業の話が入るのは少ないのが現状です。

そこで私たちは、食育現場の最前線に立つ管理栄養士や栄養教諭の卵の、宮崎市内（えびの市から車で1時間半）にあります南九州大学の健康栄養学部 管理栄養学科の皆さんと「教育ファーム」の素晴らしい事業を仲介に、農業体験を通じて、農業理解を図ろうと企画しました。それはまさに食育の「食」と「育」の間に「農」を入れることが狙いです。

さらには、これから先の世代へと受け継がれていく郷土料理を地域の皆さんと共同で開発することが、もう一つの狙いです。

4．教育ファーム：第一回目の活動内容～「食と農をキビリ隊」発足！！～

結婚式の「結」や結束の「結」という字などの結ぶという言葉を地元の方言でキビルと言います。私たちは、食つまり（食べ手消費者）と農（作り手）生産をどんどん結んで行こうということで「食と農をキビリ隊」を発足させました。

キビリ隊の目的はただ1つ！生産者と消費者を結ぶこと。さらには都市と農村を結ぶことです。

5月31日 学生たちは、大型バスに乗ってやってきました。

圃場に到着した学生たちは「広お～い」「気持ちいい～」とそれぞれ、その圃場に感激をしているようでした。JA青年部のみんなは、学生をチラチラ遠巻きに見ていました。

ほどなく、学生さんとJA青年部員により「食と農をキビリ隊」の発足式を行いました。そこで私は、今回の目的と学生や青年部員にしっかりと伝えました。ただ体験をして、ごはんを食べて、交流して終わりではなく、キビリ隊員としての役割の重要性を、念を押して伝えました。



説明風景



説明風景

今回の農業体験では、学生達を5班に分け、それぞれの班に「A青年部より班長、インストラクターとして数人ずつ入ってもらい、メインの作物となる「サツマイモ」を、うねたて作業やマルチ張り作業体験から始め、宮崎紅、潁娃紫などの7種類を定植、「トウモロコシ」の種蒔きをしました。



うね立て作業体験



マルチ張り作業体験



サツマイモの苗配り



サツマイモの苗の定植



体験中の全体風景



トウモロコシの種蒔き

最初はお互い緊張していましたが、だんだん慣れてきたようで、自家の営農状況や冗談も飛び出すようになりました。作業も真剣に取り組んでもらい、靴じゃ駄目だ・・・とみんな自ら裸足になっていました。

彼女らは、ほとんど爪にペディキュアを塗っており、黒い土に赤や青のペディキュア・・・。ミスマッチに思えますが、これがなかなか合うと思いました。とにかく、彼女らが率先して裸足になってくれたことは、嬉しい出来事でした。



トウモロコシの種蒔きのための線引き



裸足にペディキュアの学生



青年部員と学生と一緒にサツマイモの苗の定植！！



サツマイモの苗の定植体験

5 . 反省と成果

食農教育における致命的欠陥の発覚！！

青年部一人一人が感じたことですが、自分たちが消費者に農業の業の部分は伝えられても、肝心の農の部分のうまく伝えられないと言うことです。これは、食農教育においては致命的です。

今までの農家は作物を作るだけで、口を開いては市やJA、国へのお願いや文句ばかり。この虫には……。この病気には……。と農薬の種類や管理的なことは、それなりに語れますが、消費者の心に届く気の利いた話し、特に農の部分は全くと言って話せないのです。これは、本当に問題でした。今までの農家の研修はもちろん、新規就農者の研修会でも消費者に農を伝える講座なんてありません。今まで必要とされなかった分野を早急に開拓する必要があります。

参加率が上がった！！

JAえびの市青年部は総数59名ですが、今までやってきている活動の参加者の平均は、日々の仕事が忙しいとか、農繁期でとても忙しい時期で参加出来ない等ありますが、13人前後でした。これが飲み会になると20人前後に膨れ上がります。これがなんと今回の教育ファーム推進事業では、初回だけでも23人が参加しました。これは近年にない数字です。事業内容もそうですが、参加の動機づけになったのは、女子大生と一緒に出来ると言うことです。私たちはこれがJA青年部活動の盛り上がりにつながれば良いと思っています。(表参照)

活動内容	参加人数	備 考
通常の活動	約13名	勉強会、研修会、各種イベントなど
飲み会	約20名	反省会、忘年会等
教育ファーム	23名	第1回目：学生28人参加

終わりに。。。

今、巷では婚活ブームですが、そんなブームには目もくれず(?)、ただただ消費者と生産者を結び、消費者を変えたいという一心が、先に述べました課題と、消費者活動が活発になったという副産物を与えてくれました。これからどんな出会いと効果と結果が生まれるか楽しみですが、この教育ファームにより、効果は一石を投じて、2鳥、3鳥・それ以上になるのは確実になりそうです。

講演・発表者プロフィール

基調講演

奈須 正裕（なす・まさひろ）

1961年徳島県生まれ。徳島大学教育学部卒業、東京大学大学院科博士課程修了（教育学）。国立教育研究所室長、立教大学教授等を経て現在、上智大学総合人間科学部教育学科教授（教育方法学）。学校現場と共にカリキュラムや授業の開発を研究し、その中でも、子どもたちの暮らし、地域生活と直接関りのある、生活科・総合的学習の向上に力を注ぐ。子どもたちが地域生活現実と向き合い、その過程で教師と子どもたちが、共に「学び」を深めていくために、体験・活動主義だけでなく、実践に即しながら理論化することで、生活科・総合的学習教育を、よりいっそう実のあるものにすべく尽力している。現在、日本生活科・総合的学習教育学会常任理事、教育ファーム推進検討会委員などの役職を務めている。

主な著書：『総合学習を指導できる教師の力量』（明治図書）『教師という仕事と授業技術』（ぎょうせい）『学びを深める食育ハンドブック』（学習研究社）雑誌『食農教育』（農文協）など多数。

実践報告

稲益 義宏（いなます・よしひろ）

1966年熊本県荒尾市生まれ。東京学芸大学卒。現在、福岡市立愛宕小学校教諭。西日本新聞社の『食卓の向こう側』を読んだことが、積極的に食育に取り組み始めたきっかけになる。生ゴミリサイクルでの野菜栽培や、「完食おかわり券」での給食の残食を減らす取り組みを実施など、食と農を結ぶさまざまな実践を展開中。また、話題の「弁当の日」は、担任1人でも始められるコース別弁当の日「イナマス方式」を提案。

山本 実千代（やまもと・みちよ）

1960年大阪市生まれ。現在、子育て農業応援団団長、子育て生活応援団副団長。自身が中度知的障害児を生み育てる中で、当事者の立場での支援・日常生活に根付いた支援の必要性を実感したことから、2002年自宅を開放して「日常生活支援サポートハウス」を立ちあげる。2007年より石川県食育子育てアドバイザーとしても活動。「子育て中でも親子で一緒に出来る農業がある」をモットーに、子育て農業応援団として教育ファームを展開中。県内外のネットワーク化に努めている。

鬼川 直也（おにかわ・なおや）

1973年宮崎県えびの市生まれ。宮崎産業経営大学卒。卒業後は宮崎市内のTV番組やCMの制作会社に入社。取材先で出会った農家の主人の一言に心動かされ、実家の百姓の道へ入り、丸5年経つ。消費者の繋がりを重視し、生産から加工、そして販売まで一貫した経営を行う。学生時代に学んだグリーンツーリズムを生かし、屋号を「鬼が島」と命名、農業体験を受け入れる一方、食農教育活動ではインストラクターとして活動している。現在、JAえびの市青年部の部長を始め、九州グリーンツーリズム研究会理事。

